

「食」によるライフスタイル見直し・「食」を通じた活性化

資料1-7

小田原市

■平成29年度実施内容

「適塩レシピで「未病の改善」!

「適塩フェア」を開催し、市内飲食店の店主による適塩メニューの実演や試食会を実施。さらに、市内飲食店から健康メニューを募り「適塩簡単プロレシピブック」を作成し、未病センターでの配架等による普及啓発を行った。



適塩フェア



適塩簡単プロレシピブック

「かます棒」の次なる展開

小田原産野菜や魚を使った季節限定メニュー(パンを中心)等を開発し、イベント等で販売。



かます棒ドックとカマスバーガー

■平成30年度の予定

委託事業により、市内飲食店が考案した適塩メニューを店舗で提供できるようにするとともに、イベントや適塩メニュー取扱い店舗マップ作成等により、市内飲食店から「食」による「未病改善」の普及啓発ができるようにする。

開発した商品の常設販売に向けた調整を進める。(かます棒ドックは市内パン屋での展開を予定)

道の駅を活用したにぎわいの創出

○今年度の取り組み

(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」の開業に向けて、運営体制を整えるため、実証的取り組みを行い、3つの市民参加組織を強化育成しました。

- ・直売農家育成部会
道の駅への商品出荷を前提に、自ら栽培した農産物や加工品の販売を体験する「野菜マルシェ@産業フェア」を開催しました。
- ・特産品開発部会
製造事業者に商品開発を呼びかけ、未病の改善につながる特産品の開発につなげるとともに開発した商品と事業者のPRを行いました。
- ・都市と農業との交流部会
市内の観光資源の掘り起こしを行い、未病の改善につながるツアーを企画、実施することで、道の駅開業後のツアープランの充実を図りました。

○今後の展開

今後は、未病の改善につながる(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」の開業に向けて、運営管理を行う指定管理者と市民参加組織が一体となった組織体制の確立を目指していきます。

南足柄市



(野菜マルシェ@産業フェア)



(開発商品の一例)

里山環境を活かしたウォーキングによる 未病の改善と交流促進

中井町

【実施概要】

- 里都まちスポーツイベント「ノルディック・ウォーク」を開催
⇒ 交流人口の増加及び健康とスポーツの推進を目的に、里山の景観を堪能できるウォーキングイベントを開催
⇒ ノルディック・ウォークは、専用の2本のポールにより上半身の筋肉も使うため、足腰の負担を軽減しつつ、高い運動効果を得ることが可能
⇒ 認知度の向上と普及促進を図るため、講習会とウォーキングイベントを全2回に分けて開催。いずれも「未病いやしの里の駅・運動の駅」に登録されている中井中央公園を拠点として事業を展開
⇒ 今後の更なる普及を図るため、中井中央公園内「なかい里まちCAFE」に無料の貸出用ポールを設置
⇒ 未病センター・なかい健康づくりステーションでのポールの無料貸出し、ウォーキング講座も継続して実施し、ウォーキングの普及を図ることで、未病センターの利用拡大につなげる

【今後の展開】

- ノルディック・ウォークを起点として、四季折々の里山環境の魅力を発信し、町内だけでなく、町外の方にもウォーキングに中井町を利用してもらうようことで、交流促進を図っていく。



食と農業体験交流ブランド化促進事業

■ 平成29年度実施概要

地域特産物の開発及び磨き上げ、未病を改善する地域資源を活用した「売れる交流体験事業」の構築をめざし、人材育成及び体験メニュー開発に向けた取り組みを展開

1.人材育成事業

- ・町民を対象とした勉強会等の開催 7回 126名参加
- ・交流体験事業ビジネス化のための指導者養成講習会 NEALリーダー（自然体験活動指導者）45名を養成
- 2.交流体験メニューの開発
- ・NEALリーダーによる交流体験メニューの開発
- 3.交流体験メニュー試行を目的としたイベント開催
- ・夏休み自由工作応援プロジェクト等（7つのプログラム）

4.モニター民泊の実施

- ・民泊、みかん収穫及びびざづくり体験
- 6家庭（相和地区内の農家及び民家）16名受入れ
※平成28年度より計3回開催 11家庭、46人受入れ
- 5.郷土食弁当・フェイジョア等農産物のブランド化
- ・フェイジョアの栽培技術向上と6次産業化の促進

■ 今後の展開

- 1.平成29年度事業の継続
- ・交流体験事業ビジネス化のための指導者養成講習会
- ・交流体験メニューの開発とイベントの開催
- ・モニター民泊の実施
- 2.ビジネスモデルづくりと法人化に向けた取り組み
- 3.農家レストランづくり



写真：NEALリーダー養成講習会



写真：交流体験（夏休み自由工作応援プロジェクト）



写真：モニター民泊



写真：フェイジョアを使用した加工品開発

大井町

織りなす柄が新たな絆を創出する「仮称： WEAVE MATSUDA」整備事業

松田町民文化センターの現状

建設後36年が経過し、老朽化
利用者はピーク時の30%まで減少

地方創生事業としてリノベーション

従来の文化機能に、スポーツクライミング、
未病改善、国際交流等の新たな機能を加
えた複合拠点施設へ改修(リノベーション)

波及・効果

広域的な賑わいの拠点を創出

- ① 年20万人以上が訪れる丹沢山地への主要な入り口に位置する強みを生かし、スポーツクライミングの競技環境を整備。
- ② 訪日外国人の受入環境を改善し、地域への回遊性向上に寄与する為、人財育成等を展開する国際交流拠点を構築。
県西地域活性化プロジェクト推進事業に位置つけた本事業は、運動を通じた未病改善の推進と、地域資源の魅力向上等の効果を、圏域の自治体と連携しながら相乗的に波及させるものである。

↑大ホールにボルダリング
→文化センター壁面のリードウォール



松田町

森林ふれあい健康セラピー運営事業

《事業概要》

- 町域の約9割が丹沢山塊に覆われた森林地域で、その大自然を生かした癒しの場を訪れる方々に提供し、心身ともにリフレッシュして頂くため、森林の効能を科学的に実証して、2011年4月に、県内2番目となる「森林セラピー基地」の認定を受けた。
- 本事業は「県西地域活性化プロジェクト」に位置付けられ、ており、森林の癒し効果による「未病」を改善する事業として、本町としても積極的に取り組んでいるところである。

《現状と今後の展開》

- 平成29年度は、主催事業を6回開催し、約1000名の参加があったが、参加者の半分以上が都心部の方々であり、町内・県西地域の方々の参加者の割合が少ないのが現状となっている。
- 平成30年度は、新たに県立つづぶらの公園を中心としたセラピーコースを設定する予定であるため、SNS等を活用したPRなど、周知方法を工夫することで、町内・県西地域の方々の参加を促進し「未病」の改善につなげる。
- 県内「森林セラピー基地」間で情報共有を図るとともに、本町の独自性を前面に出し、森林セラピー事業を推進する。



山北町

「瀬戸屋敷」の機能強化を通じた 地域活性化

開成町

＜29年度の取組＞

（町の取組）

- 未病いやしの里の駅であるあしがり郷「瀬戸屋敷」の案内所を改修。カフェ「Café hacco」をオープン。（H29.10.7にオープン）



Café haccoの様子

（民間事業者の取組）

- あしがり郷「瀬戸屋敷」の指定管理者である（株）オリエンタルコンサルタンツの出資により、瀬戸屋敷の近隣にある瀬戸酒造店を再生し、日本酒の自家醸造を再開。（H30.3.4に蔵開き）



瀬戸酒造店の整備構想図

＜今後の展開＞

- あしがり郷「瀬戸屋敷」に「案内・食品加工・販売」の機能を持った交流拠点施設を整備

（H30年度：実施設計、H31年度：整備）

「未病いやしの里」構築事業

◆ 森林セラピー基地

はこじよとの連携による森をフィールドにした未病の普及啓発のため、「森林セラピーツアー」を4回実施。

「未病いやしの里の駅(森のふれあい館)」での森林セラピー基地としての魅力向上のため、はこじよ森林セラピーラボを活用した森林セラピー普及啓発を行っています。また、森林セラピー基地機能強化のため、森林セラピスト育成ツアーの準備を進めています。

◆ 未病改善プログラム

仙石原公園へ健康遊具を設置し、子どもから大人まで楽しみながら運動できる健康づくり広場の整備を進めています。また、国民保養温泉地「芦之湯温泉」の活用による、未病改善プログラムの開発準備を行っています。



GEOPARKS
JAPAN



箱根ジオパーク
Hakone Geopark

◆ 箱根ジオパークを利用した情報発信・提供

アプリケーション「箱根ジオパーク・ぶらり」を新規に作成し、箱根ジオパークのホームページ等で広くPRを行っています。また、今年度は「ガイド養成講座」を3回実施し、ガイドの方々への周知をしています。現在、タブレットでのアプリケーション企画の実際に使用してのジオツアー企画の準備を進めています。



はこじよ
森林セラピーラボ
～森は女子の基方～
Presented by HAKONE TOWN



「森の駅」再生－「月の道」への誘い－（真鶴町）

（平成29年度実施概要）

平成27年度に民間の力を活かしたデジタルサイネージ等による首都圏でのプロモーションを展開し、平成28年度には森の駅改修事業として来場者を受け入れる基本的な体制を整え「環境観光施設」へとリニューアルした。

平成29年度には「お林保全協議会」でのお林の環境保全に対する協議と合わせ、「未病いやしの里の駅」であるケープ真鶴を森の中核施設として「LED化」によるCO2の削減や「森のステーション」によるお林の自然環境の紹介、「足湯」による来訪者への癒しを提供することができ、環境観光施策に取り組み環境が整った。



足湯



（今後の展開）

魚付き保安林と真鶴半島の海岸線をセットで「お林」として捉え、関係機関と連携し、引き続きお林の保全（保護と活用）について協議を進め、お林の価値を町内外へ発信していく。

「森のステーション」では、併設の町立遠藤貝類博物館と連携し、来場者がお林の旬な情報を把握できる仕組みを取り入れ、森と海のビジターセンターとしての機能をさらに充実させ、真鶴の森と海を理解し、真鶴の自然に親しんでもらえる施設としての展開を図る。



森のビジターセンター



温泉泥（ファンゴ）を活用した未病改善

○目的

平成26年度に開発し、関節痛の改善やストレス軽減効果のエビデンスが得られている「温泉泥（ファンゴ）」のさらなる活用とPRにより、未病改善の取り組みを推進

○平成29年度実施概要

(1)平成29年9月に町営の温泉施設「こごめの湯」へ、温泉泥（ファンゴ）施術拠点「ファンゴハウス」を開設

★ 施設利用者数（平成30年2月末現在） 67名

(2)町内のレストランや大型お菓子工場と連携したツアーを実施（平成30年1～3月）



湯河原町

○課題

(1)温泉泥（ファンゴ）の認知不足 ⇒ 効果的なPRが必要
(2)日帰り入浴施設に開設しているため、滞在による施術が不可能 ⇒ 旅館との連携が必要

○今後の展開

湯河原温泉の歴史から見て、施設のある温泉場という立地が「現代版湯治」に適しており、今後、県西地域の他の企画との連携も期待でき、観光客数の増加が期待できる

